

農村の健康管理メモ

農村における通勤の実態

富山県農村医学研究会 豊田 文一
 富山県厚生連 木津 信子
 佐々木弘子 高木 茂

私どもは農村における肥満について調査を続けているうち、摂取エネルギーと消費エネルギーの不均衡も一つの原因として取り上げられるのではなからうかと思ひ、一つの試みとして農村における通勤状態の調査を行ってみた。これを考えるとき、摂取エネルギーの増加については、1. 食事量が多い。2. 間食が多くなる。3. エネルギーの多い食物(アルコール、脂肪の多いものなど)をとる。消費エネルギーの減少について、1. 運動不足(歩くことがなくなった、車を利用するなど)、2. 新陳代謝の低下(更年期、高令期など)である。以上は単純な発想からのものであるが、肥満というものは簡単には解決されないことも多い。ことに内分泌の関係では、甲状腺、副腎、下垂体、性腺との関連も無視できず、この点についても検索する必要がある。また遺伝的因子も疎外できない。例えば両親が肥満である場合、子どもは70%が肥満する、しかし両親の一方のときは10%であるとの報告もあり、肥満は単一的に解明できない場合もある。

さて私どもは肥満の一つの要因として運動不足に関係を有する通勤方法の実態についての調査を試みた。

調査成績

対象は農協職員で、定期検診の際、個々面接により調査を行った。人員は合計 2,144名、男1,307名、女837名である。

通勤方法は第1表に示す通りで、自動車通

第1表 通勤方法

通勤方法	数	人員比率
自動車	2,144	
%		79.4
その他	556	
%		20.6

勤(マイカー)は2,144名、79.4%、その他は徒歩、自動二輪(バイク)、自転車、公共交通機関(国鉄、私鉄、バス)で556名、20.6%である。自動車通勤の距離については第2表に示す通りで、3km以内は女性に、5km以上は男性に高率で、遠距離になる程男性の比率は高くなる。自動車以外で第3表の如く徒歩は男性14.6%、女性23.8%で女性に多く、自動二輪は男女とも大きな差はない。自転車は女性に圧倒的に高率である。すなわち男性15.0%に対し女性34.2%である。これに反し公共交通機関は、男性55.3%、女性24.6%で男性は極めて高い比率を示す。

第2表 自動車通勤距離

距離	性別		計
	♂	♀	
1 km 以内	129	123	252
%	9.2	14.6	11.2
1.1~2 km	313	172	48.5
%	22.2	20.4	21.6
2.1~3 km	170	145	315
%	12.1	17.2	14.0
3.1~5 km	249	187	481
%	20.9	22.2	21.4
5.1~10km	292	177	469
%	20.8	21.0	20.8
10.1~20km	154	33	187
%	10.9	3.9	8.3
20.1km以上	55	6	61
%	3.9	0.7	2.7
計	1,407	837	2,250

第3表 自動車以外の通勤方法

通勤方法	性別		計
	♂	♀	
徒 歩	39	85	124
%	18.7	23.8	
自 二	30	62	92
%	14.4	17.2	
自 転 車	30	122	152
%	52.6	34.2	
公共交通機関	110	88	198
%	52.6	24.6	
計	209	357	536
%	36.9	63.1	

ま と め

私どもは肥満調査に関連する一つの試みとして、主として農村地帯に居住する農協職員
の通勤方法の実態を調査してみた。

その80%近くは自動車（マイカー）を利用
している。しかも2km未満は34.4%で1/3もあ

第5表 富山県人口と免許人口年別推移

昭58.1.10 運転免許課

項目 年別	人 口 (人)	免許人 口 (人)	免許取 得率(%)	運転者 1人当り 人口(人)	免許増 加数(人)	増加率 (%)	男				女			
							免許人 口 (人)	構 成 率(%)	増 加 数(人)	増 加 率(%)	免許人 口 (人)	構 成 率(%)	増 加 数(人)	増 加 率(%)
							平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
50	1,072,615	349,501	32.6	3.1	13,272	3.9	259,945	74.4	5,745	2.3	89,556	25.6	7,527	9.2
51	1,080,550	365,918	33.9	3.0	16,417	4.7	266,477	72.8	6,532	2.5	99,441	27.2	9,885	11.0
52	1,087,614	383,352	35.2	2.8	17,434	4.8	272,526	71.1	6,049	2.3	110,826	28.9	11,385	11.4
53	1,093,369	402,080	36.8	2.7	18,728	4.9	279,095	69.4	6,569	2.4	122,985	30.6	12,159	11.0
54	1,100,710	420,099	38.2	2.6	18,019	4.5	285,268	67.9	6,173	2.2	134,831	32.1	11,846	9.6
55	1,104,218	437,066	39.6	2.5	16,967	4.0	291,197	66.6	5,929	2.1	145,869	33.4	11,038	8.2
56	1,107,280	452,623	40.9	2.4	15,557	3.6	296,550	65.5	5,353	1.8	156,073	34.5	10,204	7.0
57	1,109,711	469,694	42.3	2.4	17,071	3.8	302,295	64.4	5,745	1.9	167,399	35.6	11,326	7.3
		平均	平均	平均	平均		平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
		33.7	3.0	15,818	4.5		6,799	2.7			9,019	9.7		

※昭和44年からの電算集計に基づく。

次に参考のため富山県運転免許課の資料を
呈示してみたい。その昭和50~57年までの免
許取得状況は、第5表に示す表り、男性の免
許取得率は昭和53年以降低下の一途を辿り、
女性では僅かの低下をみ、男：女は昭和54年
2.2：9.6、55年2.1：8.2、56年1.8：7.6、57
年1.9：7.3となり女性の免許取得率は男性に
比して格段の高率であることが特徴的である。

以上、私どもは農村における勤労者の通勤
状況について調査を行い、農村生活の一端を
うかがい知ることができた。またこの調査よ

る。1km未満の253名中200~300m、甚しき
は100mというものも少なからずみうけられ
る。第4表に省資源省エネルギー富山県推進
会議のマイカー通勤実態調査441名について
1.5km未満5.2%、私どもの場合1.0km未満11.8
%、1~2km未満22.6%で、両者合せて34.4%で、
大きな隔差に驚く。ことに1km未満は徒歩通
勤でも何ら苦痛を感じないであろうと思うの
は私どものみではあるまい。

第4表 通勤距離(452名)

距離	人数	人員	%
1.5km未満	23	5.1	
1.5~5km	98	21.7	
5~10km	128	28.3	
10~30km	188	41.6	
30km以上	15	3.3	

り農村健康管理の進め方に一つの示唆を与え
るものと思ひ敢て呈示したわけである。

引用文献

- 1) 野崎幸久、杉山二六佑：肥満の食事療法、保健
同人社。
- 2) タナカイチロー：デブとヤセどちらが損か得か
山手書房。
- 3) 省資源省エネルギー運動富山県推進会議：昭和
56年度マイカー使用実態調査報告書 富山県
- 4) 富山県運転免許課：富山県人口と免許人口年別
推移 富山県公安委員会資料。